

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

5月30日、県大会会場の整備に協力を要請します

読者の一人である長野工業高校の近藤正先生から以下のメールをいただいた。紹介する前にちょっと以下の前置きを読んでいただきたい。今年の高体連の県大会はご承知のように「霊仙寺山・飯縄山」を会場に、6月3日から5日にかけて行われる。この山域はこれまでも何度か県大会を開いてきた山域だが、霊仙寺山と飯縄山の間稜線は近年訪れる人も少なく、結構荒れており、大会開催の都度町役場を通して笹刈りをしてもらって大会を開催してきた。実際、昨年下見した際も、手を入れないと道迷いや捻挫などトラブル発生の可能性もあるなど思い、高体連登山部として大会運営の円滑化のため、今回も役場を通して登山道の整備をお願いしていたのであった。・・・で、下のメールである。実は町でやってもらっていたとばかり思っていたのだが、実際は我々の仲間がボランティアでやって下さっていたのであった。

もし、この「かわらばん」をお読みになって、お手伝いができるという方がいたら、ぜひご協力いただきたいと思ひ紹介する次第である。「幻のコース」原田新道を歩くチャンスでもあります。我と思わん方はぜひ！！以下、いただいたメールをそのまま転載します。

大西さん、こんばんは。ご無沙汰しております。長野工業高校勤続7年目に突入の近藤正です。かわらばん、毎回楽しみに拝読しております。池田工業でも早速の活躍の様子、僕もスキー班顧問なので参考になりました。大西さんの引き出しの多さ、「さすが！！」と思いましたよ。

さて、本題に移りますが、私は飯綱町黒川で生まれ育ち、今もそこに住んでいます。数年前、中野労山「まみくとい山の会」を事情があった退会した後、地元飯綱町の「飯綱岳友会」という体協所属の小さな山の会に所属しています。年に2回も山に行けば御の字といった感じの小さな会ですが、霊仙寺・飯綱の登山道整備を会で毎年行っているのがとりえの会です。昨年は天候不順で、2回計画した登山道整備が雨で流れてしまい、やってありません。偵察等でお気づきかとも思いますが、霊仙寺～飯綱の縦走路がたいぶ笹藪に侵食され、場所によっては道が消えかかっています。

もうひとつ、いづなりリゾートスキー場から飯綱町と長野市の境界線上を一気に飯綱山頂まで駆け上がる「原田新道」というルートがあります。このルートは会の立ち上げのきっかけを作った原田〇〇氏が開拓したルートで、最短でありながらあまりにも厳しいため知る人ぞ知る＝ほとんど人の歩かない幻のコースとなっています。それだけに藪の侵食と登山道整備の激しいせめぎあいを毎年毎年繰り返しているこのコースも岳友会が維持しています。

さて、本山域が本年度県大会のコースになるとお聞きし、また体協事務局からも「高体連の先生が登山道整備に協力してくれると聞いていたよ」といううれしい報告を受け、ぜひともご協力いただけないかとお便りしたしたいです。岳友会も高齢化と休部者が増え、実際に活動しているのは10名足らずです。チェーンソーとビーバーを背負って道をつけながら日帰り縦走するのめたいぶ厳しいのが現実です。顧問諸氏のお力添えを頂き、安全な大会運営と登山道維持に一役買えれば、幸いなのですが・・・

大まかな計画は以下のとおりです

岳友会登山道整備

5月30日(日)少雨決行6:30AMいづなりリゾートスキーセンター「オーロラ」前集合

ビーバー隊(岳友会若手といっても40~50代)・・・6名程度

草・枝片づけ隊・・・岳友会で2名程度 こちらに協力いただけないでしょうか？

スキー場ゲレンデを登り霊仙寺登山道中間に合流→霊仙寺山頂→縦走路→飯綱山頂→原田新道下山→オーロラ 解散、オプションで天狗の湯入浴、午後3時から4時には終われる予定です。

大変恐縮ですが、高体連登山専門部・山岳部顧問の先生方で協議いただきお力を貸していただけると助かります。勝手なお願いですが、よろしく願います。(近藤 正)

センター高校研修会、嬉しい悲鳴

15、16の両日に開催されるセンターの「高校登山研修会」、参加者が22名集まったと聞いてとても嬉しく思った。参加校数も6校だという。ここ数年の間では最高の高校と高校生・顧問が針ノ木に集う。僕も2人の生徒を連れて参加するが、そのための準備で充実した日々を送っている。

今回、この研修会に参加してくれるのは「大町」「大町北」「県ヶ丘」「美須々丘」「長野西」「池工」の6校だそうだ。中信の5校に加え、長野西の参加は嬉しい限り。県大会を前に基本的な登山技術をここで学ぶというのが、一つのスタンダードになればいい。当初はセンターのスタッフと今滝さんとで講師を務めることになっていたが、22名の受講生が集まったということで、小生にも講師の仕事が回ってきた。池工の生徒は2、3年生ではあるが、2人とも昨年まではほとんど山経験はない。ぜひいい経験を積ませてあげたいと思っている。もちろん他の学校の生徒たちにも・・・。「山」や「自然」の楽しみを知らしめるのに、残雪期、新緑が芽吹く針ノ木雪渓は最高のロケーションである。当日はセンターのリーダーコース講習会、また長山協指導委員会主催の雪上技術交流会IN針ノ木も行われることになっており、信州の山仲間が一堂に会する。昼は至るところで講習、研修が組まれ、夜は山仲間同士の気が置けない交流会があちこちのテントでくりひろげられることだろう。山を一生の趣味として楽しんでいる大人と触れることも、高校生にとっては、貴重な体験となるに違いない。

編集子のひとごと

センターのリーダーコースへの応募者数が予定した定員数を大幅にオーバーし、断らざるを得なかった人が相当数いたそうだ。応募してきた人は、従来の中老年登山者ばかりでなく、若い女性も多かったという。ここ数年流行の「歴女」にかわり、今年のトレンドは「山女」か・・・。それと呼応するように、あちこちの高校の山岳部から今年は大勢部員が入ったという声を聞く。これまでクライミング以外の部員がいなかった白馬では4人の新入部員、ここ数年で一番盛大な歓迎会ができたという大町、県外から山をやりたいと入学してきた生徒を受け入れた大町北、新入部員が5人もはいったという県ヶ丘・・・。私の回りの学校はどこも盛況の様子である。我が池工では先週の土日「歓迎焼き肉」と称して大峰高原でキャンプ、翌日はセンターの岩場でクライミングをした。しかし、肝心の歓迎されるべき生徒は残念ながらゼロ。3人の生徒たちに顧問2人が歓迎されたのだった。まあ、慌てない、慌てない。まずは今在籍している生徒たちと少しずつ、できるところから始めていきたい。学校の中で足固めの日々。(大西 記)